

私たちのくらしと税金～なぜ、選挙に行くのか～

新庄市立日新小学校教諭 6学年 大澤 拓郎

実施年月日：令和3年10月18日～29日 25名

1 実践計画・指導のねらい

選挙は、国民生活に関わる法律や予算（税金の集め方・使われ方）の議決権をもつ国会議員（都道府県・市区町村議会議員）を選ぶ、即ち税金の使い道について自分の意思を反映させる最も重要な機会である。しかし、選挙権年齢を18歳に引き下げた改正公職選挙法（2016年）の施行後、4度の国政選挙が行われたが、いずれも若年層の投票率は極めて低い。学級の児童対象に選挙に関するアンケートを実施しても、大多数は「選挙に行く」と回答するが、その理由や目的を問うと不明瞭な場合がほとんどで、選挙や税金に対する理解や考えが浅いと感じられる。本実践において、まず税金と日常生活との関わりやその必要性を理解し納税者としての意識を高めたい。その後、自治体や国の財政の様子を考察したり選挙で投票することの是非を話し合ったりする活動を通して、税金の集め方や使い方を最終的に決めるのは、他ならぬ自分たち一人ひとりだということを認識させる。そして、児童一人ひとりが選挙権を得る近い将来、主権者として投票を通じて自分の意思を政治に反映させるとともに、納税者として将来にわたって主体的に税に関心をもち携わり続けようとする態度を育てたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・新庄市地域子育て支援センター「わらすこ広場」がつくられるまでの経緯や、今日の管理・運営の仕組みについて知る。	○ 「わらすこ広場」はどのようにしてつくられたのだろうか。 ● 自分も幼いころに利用したことがある。 ● 建設や運営には、市役所や市議会が関わっているんだね。 ● 無料で利用することができるけれど、その分のお金はどこから出ているのだろうか。 □使用教材名 新庄市議会だより No.147（令和元年2月12日付）
2	・租税教室を通して、税金の集められ方や使われ方について理解を深める。	○ 税金はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。 ● 道路や警察・消防、教育にいたるまで、たくさんのことに税金が使われている。税金がないと今の暮らしが成り立たなくなってしまう。 □使用教材名 法人会による租税教室 
3	・「財政」の役割を理解するとともに、新庄市の令和3年度当初予算の歳入と歳出の内訳から、市の財政の特色を捉え自分の考えをもつ。	○ 新庄市の財政にはどのような特色があるのか。 ● 社会福祉や教育に多くの予算が割り当てられている。 ● 集められた多くの税金が使われているけれど、それだけでは足りていない。 ● 新庄市は今後どんなことに税金を使っていくべきなんだろう。 □使用教材名 広報しんじょう No.760（令和3年4月8日付）
4	・若年層の投票率低下の問題点や選挙を通じて政治に参加する意義について、税金の使い道と関連させながら考察する。 	○ 若者は選挙に行く必要があるのだろうか。 ● 子どもや若い人にもっとお金をかけるべき。そのために若者がもっと選挙に行って政治を動かさない。 ● みんなが税金を納めているんだから、みんなが平等に豊かになれるような税金の使い方をしないとイケない。 □使用教材名 総務省、財務省、国立社会保障・人口問題研究所が提供する各種統計（年代別投票率の推移、一般会計当初予算、社会保障給付費の推移・内訳等）を基に指導者が用意した資料 社会科資料集6年（青葉出版） YouTube【若者よ、選挙に行くな】（たかまつななチャンネル）

【指導のポイント】＜1時間目＞

児童にとって馴染みのある身近な公共施設を扱った。管理や運営に多額の費用がかかる一方で市民は無料で利用できることから、それらの疑問をもとに税金への関心を高めることができた。

【指導のポイント】＜2時間目＞

税金に関するクイズやVTRの視聴を通じて、税金の役割や種類、基本的な仕組みを理解した。「もし税金がなかったら」と仮定して考えることで、税金と日常生活との関わりやその必要性を実感させることができた。

【指導のポイント】＜3時間目＞

新庄市の広報に掲載された一般会計予算の内訳を資料として、市の財政の様子を考察した。税金が市民生活に役立てられていることに気付くだけでなく、税金以外の財源に頼らざるを得ない現状に触れたり、税金の使い道に対する自分の意見をもったりすることができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

若年層の投票率低下の問題点について、国の予算分配や政治の方向性などと関連させながら各種資料を根拠に考察させた。「選挙に行ったら投票する」＝「税金の使い道について自分の意思を反映させる」ことでもあることを理解し、政治についてより自分事として考える児童の姿が見られた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 市広報や市議会だよりをもとに、自らが住む市の実際の税金の使われ方を調べる活動を通して、税金を身近なものとしてその必要性に気付くことができた。
- ◎ 望ましい税金の使い方について自分の考えをもつとともに、選挙によって自分の意思を反映させようとする政治参加への意欲を高めることができた。
- ◆ より具体的・客観的な根拠をもった自分の考えを構築し表現するために、情報収集したり資料を分析したりする力を今後も継続して高めていく必要がある。
- ◆ 市議会を傍聴したり、市に対する自分の考えを提案したりするなど、各機関と連携した学習計画が組めると、さらなる社会参画の意識向上が期待できる。